

目次/テーマ展 個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～表紙/いわて文化ノート 岩手のウォール街「中ノ橋通」p.2-3/展覧会案内 テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」p.4-5/解説員室よりいわてを探りにいらっやしませんか?/活動レポート トピック展「縄文時代のアクセサリー」p.6/活動レポート トピック展「カラフルな夏鳥たち」/活動レポート トピック展「盛岡竿」p.7/インフォメーションp.8

テーマ展

個性派役者勢揃い

～岩手の操り人形～

2020年10月3日(土)～11月23日(月・祝)



あわじ せんざい さんぼそう えびす
淡路人形(岩手県立博物館蔵) 左「千歳」・中央「三番叟」・右「恵比寿」

江戸・明治～昭和戦後まで当たり前のように岩手の各地で興行され多くの人たちを魅了した人形芝居。舞台にあがる操り人形はみんな個性派役者ばかり。県内に現存する人形を一堂に会し、大衆娯楽の一時代を築いた「操り人形(人形芝居)」について紹介します。

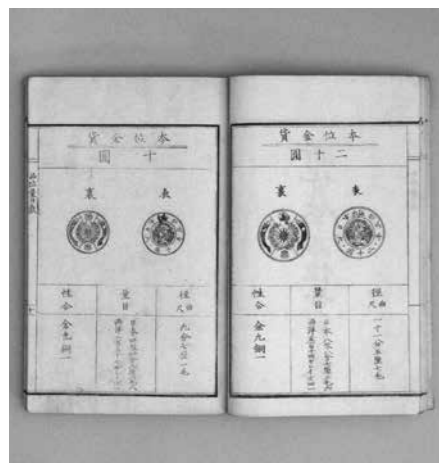
■いわて文化ノート

岩手のウォール街「中ノ橋通」

主任専門学芸調査員 菅野 誠喜（歴史部門）

【お金の制度の改革】

江戸幕府が倒れ、明治政府となっても貨幣は江戸時代のものでそのまま使用されていました。また各藩が独自に発行した藩札の使用もそのまま認められていました。しかし、近代的な経済体制確立のためには、幣制の改革が必要でした。政府は1871年（明治4）大阪に造幣局を設置して新貨幣の鑄造を開始するとともに、新貨条例を公布し円・銭・厘の貨幣の制度を定めました。また、太政官札や民部省札も発行されており、藩札や府県札など流通紙幣の種類も多く複雑であったので、紙幣も速やかに統一する必要がありました。政府は旧紙幣の回収と紙幣の統一を目的として1872年（明治5）に新紙幣である明治通宝を発行しました。しかし、偽造されることが多く、1881年（明治14）には改造紙幣を発行することになりました。このようにお金の制度の改革は大変な船出となりました。



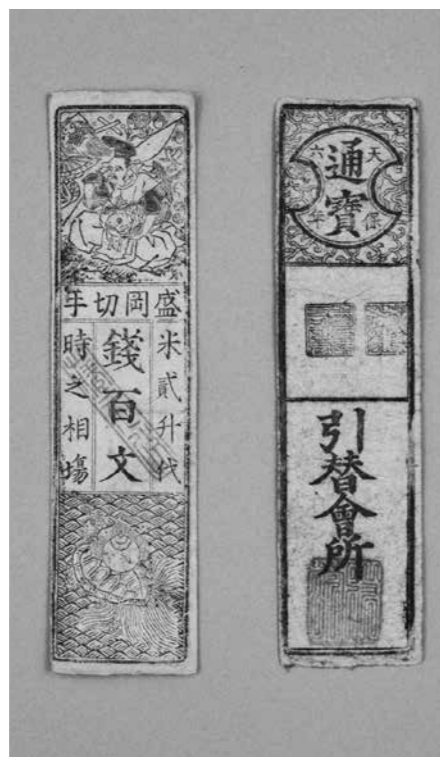
新貨条例（当館蔵）

【国立銀行条例】

明治政府にとって、藩札および政府紙幣の整理と金融機関の必要から銀行制度の確立が急務となりました。

1872年（明治5）国立銀行条例が公布され全国に153の国立銀行が開設されました。こうして預金や融資などの業務の他に、1円、2円、5円、10円、

20円の5種類の紙幣が発行されることになりました。国立銀行は、アメリカのナショナルバンクをモデルとし、これが直訳されて国立銀行と呼ばれたもので、外国でいう国有銀行ではなく、国法によって設立した株式会社の私立銀行でした。岩手でも1878年（明治11）に第一国立銀行盛岡支店が開設しました。しかし、1894年（明治27）7月に廃止されることが決定し、県の公金の取扱業務を宮城の第七十七国立銀行盛岡支店に譲渡することになりました。



盛岡藩札(七福神札) (当館蔵)

【第九十銀行】

岩手には1878年（明治11）に盛岡に資本金10万円で第九十国立銀行、一関に資本金5万円で第八十八国立銀行が開設されていましたが、第九十国立銀行、第八十八国立銀行ともに県の公金を取り扱うことができず、その権限を第七十七国立銀行に取られてしまいました。こうして設立された各銀行が国立銀行券を乱発し、紙幣が市場にあふれました。一方で1877年（明治10）に西郷隆盛を首

領に立てて、士族が明治政府と戦った西南戦争が勃発しました。政府が戦費調達のため、不換紙幣を乱発していたことによってインフレが進行してしまいました。そこで政府は松方正義大蔵卿が中心となって紙幣整理を行うとともに、1882年（明治15）に日本銀行を設立して唯一の発券銀行としました。これにより国立銀行は紙幣発行の機能を失い普通銀行に転換されました。

国立銀行は開設して20年間は営業を継続できましたが、満期後は国の管理下から離れた私立銀行となり、第九十国立銀行も1897年（明治30）に、銀行名を第九十銀行に改称して営業を続けました。現在、数字を銀行名にしている銀行が8行あります。そのうち、明治時代の国立銀行開設当時の名称を引き継いでいるのが、第四銀行（新潟県）、十六銀行（岐阜県）、十八銀行（長崎県）、七十七銀行（宮城県）、百五銀行（三重県）、百十四銀行（香川県）の6行です。岩手の人々にとっては宮城県の七十七銀行がなじみ深いと思います。その後、第九十銀行は1938年（昭和13）に第八十八銀行、岩手銀行（現在の岩手銀行とは別の銀行）の3行が合併し、一関に陸中銀行を開設しました。第九十銀行の社屋は1910年（明治43）に盛岡出身の横濱勉の設計で完成し、2002年（平成14）に、もりおか啄木・賢治青春館となり、2004年（平成16）に国の重要文化財に指定されました。建物の壁面上部には「株式会社第九十銀行」の文字が残されています。



国立銀行券五円（第八十八国立銀行）複製
（岩手県立博物館総合展示室・個人蔵）



国立銀行券一円（第九十国立銀行）複製
（岩手県立博物館総合展示室・個人蔵）



もりおか啄木・賢治青春館（元第九十銀行）

【盛岡銀行】

岩手でも公金取扱いができる銀行が必要となり、盛岡の実力団体である「盛岡交話会」の20名が中心となり、1896年（明治29）に資本金5万円で盛岡銀行を開設しました。初代頭取は佐藤清右衛門で、のちに村井弥兵衛に、そして1911（明治44）年に金田一勝定が就任しました。1898年（明治29）には岩手県公庫事務を取り扱い、1904（明治37）年には第七十七銀行（1897年に改称）から国庫取扱事務を引き継ぎ、県内最大級の銀行へと成長しました。1911年（明治44）、に東京駅設計者である辰野金吾と岩手県出身の葛西万司によって本店社屋が完成しました。

1928年（昭和3）、新銀行法の施行により、資本金100万円以下の銀行は営業できなくなることから県内の銀行は合併を進め11行あった銀行は盛岡銀行、第八十八銀行、第九十銀行、前述した旧岩手銀行の4行となりました。

盛岡銀行は、1931年（昭和6）の岩手金融恐慌により翌年休業し、1936年（昭和11）に盛岡銀行本店社屋が岩手殖産銀行（現岩手銀行）に売却され、1983年（昭和58）まで岩手銀行本店として営業を続け、本店が新築移転後は、岩手銀行中ノ橋支店として利用されました。1994年（平成6）に国の重要文化財に指定され、2016年（平成28）に岩手銀行赤レンガ館となり現在に至っています。



岩手銀行赤レンガ館(元盛岡銀行、元岩手銀行本店・中ノ橋支店)

【盛岡貯蓄銀行】

1921年（大正10）に貯蓄銀行法が発布され、普通銀行では貯蓄業務ができなくなり貯蓄業務を主とする銀行は、特殊銀行として単独で営業することになりました。この時、盛岡銀行・第九十銀行などから貯金額の譲渡を受け、盛岡貯蓄銀行が設立されました。1927年（昭和2）に葛西万司の設計によって社屋が建てられ、その後1935年（昭和10）に岩手貯蓄銀行に改称し、1943（昭和18年）に岩手殖産銀行（現在の岩手銀行）に買収されました。社屋は1958（昭和33年）に現在の盛岡信用金庫の所有となり、1977年（昭和52年）に盛岡市の保存建造物に指定されました。



盛岡信用金庫本店（元盛岡貯蓄銀行）

かつての第九十銀行、盛岡銀行、盛岡貯蓄銀行の社屋は、盛岡市の中心を流れる中津川に架けられた中の橋から徒歩5分圏内に今もあります。周辺を散歩し明治、大正、昭和初期のノスタルジーを感じてみてはいかがでしょうか。

■展覧会案内

テーマ展 「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」

会期：令和2年10月3日（土）～11月23日（月・祝） 会場：特別展示室

■はじめに

人形芝居は、江戸・明治～昭和戦後まで当たり前のように岩手の各地で数多く行われていました。しかし、昭和30年代を境に後継者問題などから廃れていき、現在は数団体を除いてその存在をも忘れ去られようとしています。今回、当館所蔵の淡路人形や昭和期の操り人形をはじめとして、県内に現存する人形を一堂に会し、大衆娯楽の一時代を築いた「操り人形（人形芝居）」について紹介します。

■操り人形とは

「操り人形」と一言と言っても、様々なものがあります。胴部と手首についた棒を操る「棒遣い人形」、糸をつけた「糸操り人形」、胴体や頭の部分を指に入れて動かす「指人形」、文楽のように大型の人形を複数で動かすものも含めて、総称して「操り人形」といいます。

■操り人形の変遷

かつて平安時代の人形は「傀儡」と呼ばれ、首から箱を提げてその上で小さな傀儡（人形）を操って見せる集団がいました。形態からその人形芝居は「箱まわし」と称され、祝歌を歌ったり、物語を語ったりして各地をまわったといえます。



西宮神社（西宮えびす神社）

中でもえびす様のご神像をかたどった人形を操り、正月の門付けとして家々をまわった集団は「えびすまわし（えびすかき）」と称され、えびす神社の総本社「西宮神社」（兵庫県西宮市）を人形芝居の祖の地とされています。

一方、恋物語の語り物から始まった「浄瑠璃」は、江戸時代に入り、三味線

と操り人形が加わって「人形浄瑠璃」となり、江戸の中頃には、専門の操師や義太夫（浄瑠璃節の流派の一つ）が出てきて黄金期を迎えます。人形も目や眉、口が動くなどの改良が加えられ、さらに一体の人形を一人から三人で扱うようになります。そして明治になる頃には、「文楽」と呼ぶようになっていきます。

■鈴江家の淡路人形



淡路国三原郡三条村との関係を示す鈴江家敷地内にあった三条稲荷神社（鈴江茂氏提供）

昭和62年（1987）、盛岡市鉈屋町の鈴江家で淡路人形と関連文書が発見されました。淡路人形浄瑠璃は、現在国指定重要無形民俗文化財に指定されており、500年の長い歴史を持つとされる人形芝居です。鈴江家から見つかった古文書によると、江戸時代、盛岡にやってきた淡路国三原郡三条村の庄屋鈴江又五郎の弟、操師鈴江四郎兵衛は、寛永18年（1641）南部藩主南部重直に上覧し、盛岡での居住や盛岡鎮守の祭礼及び領内での興行を許されたそうです。鈴江家は印判業を兼業しながら、操座元を明治まで続けたと言われています。淡路人形が発見された鈴江家はその子孫にあたります。



操座元太夫系図（当館蔵）

発見された人形は、淡路人形5点、指遣い人形7点、指遣い人形の頭3点、狐の人形1点です。人形の製作年代は不明ですが、一体の人形を一人で操る「一人遣い」の人形であることや人形の内部構造、着物の様子などから江戸期のものとして報告され、享保（1716年）以前まで遡ることができる可能性も示されています。全国興行を行っていた淡路人形が、当時盛岡の地までやってきたことを示す大変貴重な資料です。



淡路人形「三番叟」（当館蔵）

■地域・全国を舞台とした操り人形（人形芝居）

・明治以降の人形芝居

明治になると藩政時代と異なり、旅芸人の行き来も自由になったほか、地芝居なども興行しやすい世の中になりました。ここに、岩手の各地で「自分たちで作る自分たちが観るための集落ごとの人形芝居」が生まれてきます。主に農閑期に行われた人形芝居は、娯楽の少なかった時代に大いに受け入れられ、地元のみならず近隣周辺へも足を運びました。人形芝居を見て感動し、今度は自分たちでも芝居をする—このようにして浸透していきます。現在残っている人形の頭はプロの人形師だけではなく、自作とみられる素朴な頭も多く残っています。衣装の多くは家族が作ったようです。自分たちが楽しむための人形芝居には、家族の協力も不可欠でした。

・岩手の操り人形

人形が現存する代表的なものについていくつか紹介します。

＜安庭あやつり人形芝居＞

秋田で修業を積んだ細川長二郎（雫石町安庭）により昭和3年（1928）に旗揚げされ、以前は細川人形芝居と称していました。昭和28年（1953）一時中断、昭和50年代に復活を遂げましたが、後継者不足により現在再中断しています。



人形を操る細川長二郎（写真個人蔵）

頭はハサミ式（人差し指と中指で首部をはさみ頭を動かす）で、二体の人形を両手に持って同時に動かす猿倉人形芝居（秋田県）の流れを汲んでいます。猿倉人形芝居系の十八番である「貫鉄坊主の笠踊り」は好評を博しました。

＜アヤツリ人形芝居亀花一座＞

花巻市大迫町亀ヶ森の藤田惣吉が明治37～40年頃に創立した一座です。近隣地域での巡業の後、大正末期には「亀花甲寿郎一座」と改め、昭和17年（1942）頃まで全国を舞台としてまわっています。

一方、惣吉の全国巡業に同行せずに地元で一座を引き継いだ藤原権治もまた「アヤツリ権さん」と呼ばれるほど評判をとった操り師でした。周辺地域の人形芝居に多大な影響を与えた亀花一座でしたが、昭和30年頃には幕を閉じました。



眉毛に特徴がある亀花一座の人形（碧祥寺博物館蔵）

＜水押袂紗人形＞

明治14年（1881）頃、北上市口内町（旧福岡村水押）の昆野喜惣兵衛が金ヶ崎の藍澤扇紫のもとへ入門、人形遣いを学んだのが始まりとされています。さらに義太夫を習得し、近隣の昆野彦右衛門、

鈴木新之助らと一座を結成し、巡業を始めます。大正時代前半が最盛期で、農閑期だけでなく興行していたと言われていました。一座の中には倉沢人形歌舞伎創始者の菅野常次郎もいました。資料の大半が北上市立博物館に残されています。



水押袂紗人形（北上市立博物館蔵）

＜湯田かんとつまわし＞

湯田かんとつまわしは、『岩手の人形芝居』（金ヶ崎町芸術文化協会）の中で、湯田町杉名畑に住む照井武治が、旧仙北郡西木村の夫婦の

「かんとつまわし」一座のまねをして人形をやり始めたと言われています。昭和30年頃まで興行していたとされ、長い間、同町の私設博物館に収蔵されていました。現在は滋賀県の人形劇の図書館に収蔵されていますが、今回お借りし展示することになりました。

・新たな人形頭の発見

＜浄法寺下林の操り人形＞

今回の調査により、これまで見つかっていなかった県北でも人形芝居が興行されていたことがわかりました。そのうちのひとつ、二戸市浄法寺町の下林地区で行われていた人形芝居は、人形を製作した坂田伊作が中心となって行われました。人形の頭は大型で操ることは大変だったと思われます。戦前から興行を始め自宅や周辺地域に出かけましたが、伊作が体調を崩した昭和29年（1954）にはやめたといえます。



えびす様（坂田家蔵）

・今に残る人形芝居

後継者問題に加えて、テレビや映画といった娯楽が主流となった昭和30年代を境に多くの人形芝居は廃絶しました。

県内で現在でも活動を続けている人形芝居は、菅野常次郎が始めた「倉沢人形歌舞伎」（花巻市東和町）と後藤幸右工門が初代となる「広瀬人形芝居常楽座」（奥州市江刺）のみになってしまいました。



倉沢人形歌舞伎（奥州安達ヶ原秋祭祭文の場）



広瀬人形芝居常楽座（義太夫本：播州皿屋志き 下まき）

■終わりに一語りかける人形たち

人形芝居は、演じる側も観客側も娯楽の少なかった当時の人たちの楽しいひと時だったに違いありません。それぞれに特徴的な人形の顔を見ると、生き活きた表情で舞台を駆けめぐっていた様子を彷彿とさせてくれます。その一つ一つに舞台を楽しもうとする作り手の熱意や思いも感じられます。

現在、人形芝居について話を聞くことは難しいのが現状です。大事に受け継がれてきた人形も隅に追いやられ朽ちようとしています。今回の展示が郷土で生まれた人形芝居の歴史を振り返り、語り継ぐ機会となることを期待します。

（学芸第二課長 木戸口 俊子）

■解説員室より

いわてを探りにいらっしゃいませんか？

岩手県立博物館はこんなところですよ！

今年度40周年を迎える当館は、地質時代から現代にいたる地質・考古・歴史・民俗・生物・現勢の資料を展示し、岩手県の自然や歴史・文化を紹介する総合博物館です。

皆様ご存じのように、岩手県にはユネスコの世界遺産登録が2件（平泉、橋野鉄鉱山）と候補が1件（御所野遺跡）、そして無形文化遺産登録が2件（早池峰神楽、吉浜のスネカ）があります。また、



解説の様子

三陸海岸は日本ジオパークに認定されるなど地質学的にも見どころ満載。新鮮な海の幸や農産物が豊かに実る自然いっぱいの本州一広い県です。

収蔵資料の数々をご覧ください、実際に現地を訪ねると、さらなる感動があることでしょ。そして県内各地の博物館や資料館にも足をお運びいただければ、より深く楽しめると思います。

「現地にはなかなか出かけられない」という方や、岩手に長く住んでいらっしゃるベテランの皆様にご提案します。

休日のひと時、当館でちょっとした県内めぐりの旅や時空を超えたタイムスリップを楽しんでみませんか。知っているようで知らなかった岩手のひみつとバツリ遭遇するかもしれません。

岩手県民歴はほどほど長い私ですが、岩手についてまだまだ知らないことが多くあります。日本最古のアンモナイトの化石が岩手で見つかったことや平安時代の優れた仏像が県内各地にあることなど現在も学ぶ日々が続いています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、館内見学にあたっては皆さまにご不便をおかけし、マスクの着用、手指の消毒などをお願いしております。いつもであれば遠足などの団体利用や休日のご家族の憩いの場として皆様楽しんでいただいていたましたが、コロナウイルスの対策を講じながら、引き続き岩手の魅力をお伝えしていけるように努めてまいります。

（解説員 乙部 佳寿代）

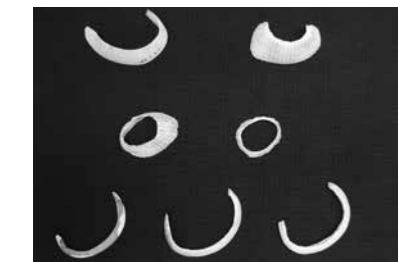
■活動レポート

トピック展「縄文時代のアクセサリー」

会期：令和2年5月19日（火）～11月23日（月・祝） 場所：いわて文化史展示室

当館2階には、人文系の民俗・歴史・考古各部門の展示品からなる「いわて文化史展示室」があります。その中の考古部門の一角に、「縄文時代のアクセサリー」と題した新コーナーを設けたので、ご紹介します。

かつて岩手の考古学研究の第一人者であった小田島禄郎。大正期に教員であった小田島が集めた考古資料が2回にわたって当館に寄贈されたのは、昭和61年



貝輪（一関市白浜貝塚出土）

と平成10年のことでした。13,000点に及ぶその膨大な資料は、貴重なコレクションとして全国に知られていますが、資料ごとに出土地点や市町村名の記載があるものが多く、このことは本コレクションの資料価値を高める要因のひとつとなっています。

今回の展示は、その小田島コレクションの中から、「貝輪」と呼ばれる縄文時代のオシャレグッズにスポットを当てています。貝輪とは、今でいうブレスレット。美しく着飾った女性だけでなく、たくましい男性たちも、この貝のアクセサリーを身に付けていたかもしれません。

左側の写真にあるように、貝輪は二枚貝の中心部をくり抜いて作られています。折れて半分ほどが見つかることも多い遺物です。



貝製垂飾品（一関市白浜貝塚出土）

この他、ユキノカサガイと呼ばれる貝に孔のあけられた垂飾り（上の写真）や、サメの背骨を数珠状につなげたネックレスの一部と思われる資料のほか、貝塚から出土したホタテガイやアワビなども展示しました。

その時代に生きて人々も、まずは海の恵みを美味しくいただき、その後は素敵なアクセサリー作り（いそ）に勤しんでいたことでしょう。（学芸第三課長 濱田 宏）

■活動レポート

トピック展「カラフルな夏鳥たち」

会期：令和2年5月24日（日）～8月30日（日） 場所：いわて自然史展示室

日本列島に桜の開花前線が北上する頃、それと同じようなタイミングで、たくさんの夏鳥が南国から帰ってきます。彼らは7月頃まで繁殖活動を行って子を育て、8月に全身の羽毛を生え換える換羽（かんう）をし、9月頃に南国へ旅立っていきます。たった数ヶ月だけしか出会えない彼らは、特に雄はきらびやかな羽



瑠璃色が美しいオオルリとヤマショウビン

毛をまとい、その美しい姿で私たちの目を楽しませてくれます。

このトピック展では、本県で見られる種を中心とした計16種の夏鳥の雄の本剥製を色ごとに展示しました。また、背景を生息環境の森林に合わせて深緑とし、自然の中での羽色の映え具合を見ていただきました。

本展での注目種はヤイロチョウ（八色鳥）です。名前のとおり全身が赤・橙・黄・緑・青・茶・白・黒の原色8色で塗り分けられており、日本に生息する鳥類の中で最も派手な1種です。主に本州中部以南に渡来し、東北地方では稀な夏鳥とされています。展示した16種の中で唯一、本県での確認記録は未だありませんが、隣の秋田県では記録があり、また

十和田湖周辺での未確認情報もあるようです。本県でも、北上山地や奥羽山脈の奥山に、少数が人知れず隠れ住んでいるのかもしれない。

これら夏鳥は、飛来数が近年減少傾向にあります。彼らが安心して飛来できる環境を保っていききたいものです。

（専門学芸調査員 高橋 雅雄）



8つの原色で飾られたヤイロチョウ

■活動レポート

トピック展「盛岡竿」

会期：令和2年5月5日（火）～ 場所：いわて文化史展示室

初夏、県内の主要河川で鮎釣りが解禁になると、釣りを待ちかねた太公望たちがどっと川へ繰り出します。この時季の風物詩、鮎釣りにちなみ「いわて文化史展示室」にて盛岡竿を展示しました。

盛岡竿は、イワナやヤマメなどを釣る溪流竿です。主な材料は、県南部の浮州竹で、何本かの竹を継ぎ合わせて使う、

いわゆる「継ぎ竿」です。その発祥は不明ですが、竹を材料とした和竿が本格的に発展したのは江戸時代で、代表的ものに江戸和竿、庄内竿、京竿などがあり、盛岡竿は京竿の伝統を受けているという説もあります。

盛岡竿の最大の特徴は、竹本来の特徴を生かしながら実用性を兼ね備えている



3本継ぎと4本継ぎの盛岡竿（当館蔵）

ことにあります。全長は、約4～5mと長い竿ですが、重さは約200g前後。長さがありながら軽く、竹本来の柔らかさとしなりを保っています。しかも一本の竹の中に竿の調子を損なわないで仕舞いこめるように工夫されています。

展示では、川釣り用のエサとなった水生昆虫も展示しています。川の石を取って裏返してよく見ると、カゲロウ類の幼虫がピタッとくっついています。また、孫太郎虫と呼ばれるヘビトンボの幼虫は、大きなものでは5～6cmもあり、見た目はムカデのようで、他の水生動物を捕食します。魚にとっては、同じ川に生きている川の虫が一番のごちそうだったのでないでしょうか。

（主任専門学芸員 近藤 良子）



新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。来館される皆様には大変ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

・「体験学習室」、「映像室」は利用を制限しています。詳しくはお問い合わせください。

お知らせ

●資料整理に伴う休館

令和2年9月1日(火)～令和2年9月10日(木)は資料整理のため休館します。

●敬老の日 65歳以上入館無料 臨時開館

令和2年9月21日(月・敬老の日)は65歳以上の方は無料で入館できます。

●文化の日 入館無料

令和2年11月3日(火・文化の日)は無料で入館できます。

展覧会

●テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」

令和2年10月3日(土)～11月23日(月・祝) 会場：2階・特別展示室
かつて岩手の各地で行われ大衆娯楽の一時代を築いた人形芝居。個性派役者の操り人形たちが勢揃いします。

※詳細は本文p.4-5展覧会案内記事をご覧ください。

◆展示解説会 会場：2階・特別展示室 当日受付 要入館料

各回とも14：30～15：30

①10月10日(土) ②10月11日(日) ③11月14日(土)

◆日曜講座 会場：地階・講堂 聴講無料 13：30～15：00

10月25日 「個性豊かな岩手の操り人形」

講師：木戸口俊子(当館学芸課長)

①フランダースの犬(アニメ/35分)②雪渡り(アニメ/23分)

③サンタさんは大いそがし(アニメ/12分)

◆チャレンジ!はくぶつかん (開館日は当館HP等で確認を)

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジマークをさがして はくぶつかんをたんけん!

9月12日・13日・19日・20日・21日・22日 テーマ：人(ひと)

10月10日・11日・17日・18日 テーマ：形(かたち)

11月14日・15日・21日・22日 テーマ：デザイン

12月12日・13日・19日・20日 テーマ：戦う(たたかう)・競う(きそう)

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13：00～14：30 幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生5名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9：30～16：30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。

予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

9月	お休み	11月	1日	スライムであそぼう
			8日	化石のレプリカ
10月	4日 11日 18日 25日	12月	15日	土器づくり
			22日	松ぼっくりのXmasツリー
			29日	砂絵
			6日	松ぼっくりのXmasツリー
			13日	まゆで干支づくり(丑)
			20日	かんたん門松
			27日	まゆで干支づくり(丑)

特別公演

「倉沢人形歌舞伎」 ※県博日曜講座を兼ねる

11月8日(日)13：30～15：00(予定) 場所：講堂 入館無料

公演：倉沢人形歌舞伎保存会

文化講演会

11月3日(火・文化の日) 入館無料の日

13：30～15：00 地階・講堂

演題：「私が出会った淡路人形と娘義太夫」

講師：山本玲子氏(啄木ソムリエ・岩手県文化財保護審議会委員)

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13：30～15：00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

9月13日「オオセツカと東日本大震災」講師：高橋雅雄(当館学芸員)

9月27日「江戸時代いわてにやってきたクジラのはなし～三陸地方の寄り鯨～」

講師：近藤良子(当館学芸員)

*10月25日「個性豊かな岩手の操り人形」

講師：木戸口俊子(当館学芸課長)

*11月8日【特別公演】倉沢人形歌舞伎 公演：倉沢人形歌舞伎保存会

11月22日「チバニアンについて」講師：山岸千人(当館学芸員)

12月13日「近世以前の岩手の製鉄―築炉技術の進化」

講師：小山内透(当館学芸課長)

*12月27日「いわての政治物語―幕末・明治・大正―」

講師：武田麻紀子(当館学芸員)

週末の催し

◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします

毎月第1土曜日 13：30～15：00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○10月3日 高齢化と過疎化を考える(実写112分/一般向け)

「人生いろいろ」

○11月7日 江戸時代の物語(実写/計102分/一般向け)

①泥棒と殿さま(実写60分)②日暮碇(実写42分)

○12月5日 冬休み直前アニメ特集

(アニメ/計70分/幼児～小学生向け)

写真コンテスト 作品募集中!!

テーマ「私の岩手山」 四季折々の岩手山の姿を写真にして博物館に送って下さい。撮影場所は問いません。

応募形式 単写真(A4判 1人3枚まで応募可 機材・白黒カラー不問)

応募方法 当館HPから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、写真と共に当館総務課宛送付して下さい(持参可)。

応募期間 令和2年6月16日(火)～令和3年2月26日(金)16：30必着
応募作品は展示の上、優秀作品については表彰します(展示期間表形式は未定)

※詳細は当館HPにてご確認ください。

定時解説

当面の間、休止いたします。

利用のご案内

■開館時間 9：30～16：30(入館は16：00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月28日～1月4日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第166号 令和2年9月1日発行	編集	岩手県立博物館
		〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
		Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214
	発行	公益財団法人岩手県文化振興事業団
		〒020-0023 盛岡市内丸13-1
		Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595

新型コロナウイルスへの対応のため、催し物の予定が変更になる場合があります。最新の情報は当館HPで確認されるか、電話等で直接お問い合わせ下さい。